

編集後記

いよいよ4月である。4月は日本人の多くの人々にとって新しい年のはじまりである。正月とは違った意味での新年度である。

また、この頃は関東地方以西の太平洋岸側に住む人々にとっては緑の季節のはじまりであるが、まだ雪に埋もれている地方に住む人々にとっては緑が待ち遠しい季節であろう。

この4月号は、川村次郎氏の巻頭言“リハビリテーションの未来像”ではじまる。氏がのべるわが国のリハビリテーションも現在正念場に立たされているという意見には多くの人の賛意が得られるであろう。その点からみても、氏の提言は時宜を得たものであり、他の人々からの未来像への提言も聞きたいものである。

特集は、Duchenne 型筋ジストロフィー症である。D型筋ジストロフィー症児のリハビリテーションにとって最も基本的な問題は、障害の経過とその評価である。そこで、上肢機能を松家氏に、下肢機能を上田氏等に執筆して頂いた。両氏ともに、最近の知見を基に障害の経過とその評価を詳説された。また、D型筋ジストロフィーの多くが、在宅のままに成長して行くことが多くなった現在、家庭でのリハ・プログラムが確立されねばならない。その視点から、実際の技術を野島氏等に、子供達

の教育の問題を小池氏等にまとめて頂いた。また、障害が進行した段階での最大の問題である心肺機能を石原氏が多角的に解説して下さった。リハ医学の中でも特異な障害像と経過を示すD型筋ジストロフィーのリハビリテーションの充実の一助になれば幸いである。

さらに、本号では調査が2編、症例報告1編を掲載することが出来た。調査の池田氏等、清水氏等の2編は、大変地味な調査であるが、このような報告を基に、リハビリテーションを良くして行く努力がなされることを期待したい。また、大橋氏等の症例報告は、中枢神経系発達異常と関連する頭蓋骨形成異常と考えられる Wormian Bones の報告であり、中枢神経系異常の早期診断の一助になり得ると思われる。今後の研究の一層の発展を期待したい。

今号では、その他に小島氏に自立生活の体験者と対談して頂いた。日本でもこの問題によりやくスポットライトが当てられるようになって来た。是非参考にして頂きたい。

最後に、講座C T、一頁講座スプリントは4回目になったが、本号からは上肢の機能解剖の講座が6回にわたって連載される。活用して頂ければ幸いである。

(大川 嗣雄)

次号予告(第11巻 第5号)

特集 リハビリテーションとスポーツ

身体障害者スポーツの

現状……………大阪市身障者スポーツセンター 藤原 進一郎

リハビリテーションとスポーツ医学……………東大・教養学部 中 嶋 寛 之

リハビリテーションにおける

スポーツ処方……………国立身障リハセンター 初 山 泰 弘

リハビリテーションと体育学……………筑波大 芳 賀 脩 光

リハビリテーションにおけるスポーツと

今後の課題……………大分・中村病院 畑 田 和 男

ヨーロッパにおけるリハビリテーションと

スポーツの現状……………中伊豆リハセンター 矢部京之助・他

巻頭言 思うこと……………東北厚生年金病院 萱 場 倫 夫

研究と報告 進行性筋ジストロフィー症 Duchenne 型

(217例) ADL と Stage の推移……………名市大・リハ 野々垣嘉男・他

頸髄損傷による上肢麻痺に対する機能再建:

上腕三頭筋の機能を中心に……………慶大・整形 伊藤 恵 康・他

症例報告 Palizaues-Merzbacher 病の

1家系例……………富山県・高志学園 大橋 光 伸・他

講 座 CT-5: 脳の血管性障害……………中央鉄道病院 竹 谷 虎 雄

上肢の機能解剖(2) 上肢の解剖と運動学(2)……………防衛医大 石 神 重 信

一頁講座 スプリント(5)

材料・加工法4: 金属・その他……………川崎医大 土 肥 信 之

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水野 祥太郎
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江口 壽榮夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
加倉井 周一
賀 集 竹 子
河 邨 文 一 郎
小 島 蓉 子
五 味 重 春
齊 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 田 玲 子
高 橋 勇
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 欽
橋 倉 一 裕
長 谷 川 恒 雄
林 玉 子
福 井 園 彦
松 村 秋
三 島 博 信
矢 谷 令 子
渡 辺 英 夫
(五十音順)

(細田, 山田)